

一步会だより 第16号

ゆっくりでいい、
止まらなければ

テーマ：四国遍路

内閣総理大臣賞
受賞



NPO法人 徳島共生塾一步会

〒770-0804 徳島市中吉野町1丁目53の1

Tel/Fax 088-623-0960

E-mail: zs100@mf.pikara.ne.jp ホームページ: <http://www.toku-ippokai.org/>

2014年06月発行

*表紙は会員内田武男さん（徳島市）にデザイン
頂いたものです。



「一步会だより」は徳島県立図書館に創刊以来の各号が保管されて
おりますので、誰でもいつでも見られます。

また、7月15日頃からは一步会のホームページでも公開する予定
であります。<http://www.toku-ippokai.org/>

目 次

- 天皇・皇后両陛下にお逢いして 新開・山田・富田・小松・・・ 2
- 飯泉知事への大賞受賞報告 副理事長 富田欽二・・・ 3
- 会員のみなさまへ「大賞受賞とこれからの活動」 理事長 新開善二・・・ 4

★特集 「遍路」～八十八ヵ所遍路道への思いを語る～

【特別寄稿】			
○ 「歩き遍路講座」10回を終えて	公認先達 大和郡山市	山下正樹	・・・ 6
○ 共生の根っこを考える			
	～ミミズもカエルも皆ごめん～	阿波市	樫本幸実・・・ 8
○ 遍路道と遍路宿の縁	果樹オーナーの宿“碧”	阿南市	原 恵美・・・ 10
○ 四国で迷子になろう	遍路歩記・デザイナー	徳島市	宮本光夫・・・ 11
○ 阿南市大井町のお接待の取組み			
	加茂谷へんろ道の会副会長	阿南市	井出達海・・・ 12
○ 四国遍路と私	徳島県広域行政課	小松島市	小山実千代・・・ 14

- 遍路道クリーンアップ作戦「最初の最初」 那賀町 谷口右也・・・ 15
- 遍路道を大切にしたい 阿南市 計盛幸雄・・・ 17
- 歩くことに意味がある 徳島市 内田武男・・・ 19
- “空海の道ウオーク”のお接待 吉野川市 瀬尾規子・・・ 20
- 富士山に続く世界遺産登録への小さな動き 小松島市 富田欽二・・・ 22
- 一步会に入会して 阿南市 姫野博司・・・ 23
- 一步会の環境活動（遍路道美化作業） 阿南市 米川比呂士・・・ 24
- ユース会員の声 福谷洋介・林大輔・・・ 26
- 阿波徳島“5ヵ所”まいり 徳島市 小野宣明・・・ 27

★その他寄稿・事務局便り等

【特別寄稿】			
○ 東北支援ボランティア活動	とくしま県民活動プラザ	吉野育也	・・・ 30
○ 私たちの東北支援～石巻ひがし保育園との交流から～	藍住町	小林徳子	・・・ 32
○ 一步会ユースの里山再生活動/ゴーヤで東北支援		黒田明久	・・・ 34
○ 只今、自然環境のこと勉強中		事務局	・・・ 35
○ 海亀よ！今年もやって来い		富田欽二	・・・ 36
○ 編集後記		事務局	・・・ 37

★裏表紙 特報！徳島新聞賞奨励賞受賞（創刊70周年記念事業）

天皇・皇后両陛下にお逢いして



新開・山田・富田・小松

総会資料でご紹介したように、一步会は4月25日に東京の憲政会館で開催された「平成26年度緑の式典」に招かれて、安倍総理より“緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰”を授与し、その後のレセプション会場では、安倍総理ほか主要閣僚と親しく懇談したのみならず、ご臨席の天皇陛下、皇后陛下に代表4人で近づきお話しするという栄誉ある機会が与えられました。

レセプションは250名位の参加者で両陛下をはじめ政府主要閣僚の参加とあって、宮内庁や内閣府の関係者、SP等多くの取り巻く中で開催でした。全国12団体と個人2名の表彰に選ばれた一步会は、順番に両陛下に拝謁することになり、金屏風の前に立たれた両陛下に新開、山田、富田、小松の4人で近づき、5分間ぐらいでしたが、四国遍路についてお話しさせていただきました。内容は、つぎのとおりです。

新開「徳島県からやってきた徳島共生塾一步会と申します。八十八か所遍路道の美化作業を10年間続けて、今般、総理から表彰していただきました。有難うございます。」

天皇陛下「それはそれは大変でしたね。本当にご苦労さまでした。徳島には何年か前の植樹祭に呼んで頂いたことを覚えていますよ。四国には満濃公園という大きな素晴らしい公園がありますね。」

皇后陛下「愛媛に呼んで頂いた時に、お遍路さんにお逢いしたことがありますよ。お遍路さんの姿がとても印象的でしたよ。」

天皇陛下「みなさま、いつまでもお元気で頑張ってください。」

新開「両陛下もお元気で、また、四国にお見えになる日が来るのを心待ちしております。」

このようなことは、前にも後にもない当会としては将に歴史に残る大変名誉なことで、一步会の代表として参加させて頂いたことに会員のみなさまに感謝します。



レセプションでの4人、太田国土交通大臣と。

平成26年4月30日
“緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰”受賞を
飯泉知事へ報告



秘書課に飯泉知事のアポをとって頂き、四人で訪問した。今回の表彰は西日本では一歩会だけ、徳島県での誇りでもあり嬉しいと大変喜んで頂いた。



表彰式の様子を報告、レセプションでは両陛下と話を賜ることが出来たとの報告に知事もびっくり。



「今後も地道に活動を続けて欲しい」と激励され、知事を真ん中に記念写真を撮った。

～会員のみなさまへ～

大賞受賞とこれからの活動



理事長 新開善二

会員のみなさまには、常日頃から当会活動にご理解ご支援を頂き、ありがとうございます。
18年目を迎える一步会ですが、25年度もみなさまのお力で順調に事業を遂行することができました。
既に新聞等で大きく報道されたように、今般、一步会は名誉ある大賞を立て続けに受賞しました。

「緑化推進功労者内閣総理大臣賞」「徳島新聞賞奨励賞」（創刊70周年事業）です。

この10年にわたる四国遍路道の美化活動が大きく評価されたものですが、それだけではなく当会の幅広い身近な環境活動も少なからず寄与したものです。これらの活動は地域の多くの団体や有志の方々と一緒になっての活動であり、それらの方々にご参加頂いたことに感謝し、一緒になって喜ぶべきことだと受け止めねばなりません。それに何といても、当会の組織としての強み、持ち味の発揮が出来ていることをお互いに有難く感謝し合いたいと思います。種々の事情で活動にご参加困難な会員のみなさまにも、いつも一步会活動に目を向けて頂き、只々、感謝しております。このところ、行くところ、顔を出すところいたるところで大勢の方から、この大賞受賞についてお祝いの言葉を頂いております。私たちは、この受賞に驕らず高ぶらず、これからも謙虚な気持ちで、地域へのお役立ちができるよう、一步一步、地道に努力して参らねばと思います。

●一步会の基本ポリシー 設立当初から一貫して

「環境に優しいまちづくりに向けて、できることを一步一步、行動に移そう！」です。

●これからは

「遍路道作業で共に頑張った方々と一緒になって“遍路を活かしたまちづくり”にも取り組みます。

この10年間、一緒になって汗を流した地域の方々との絆を大事にし、遍路を活かしたまちづくり活動をいろいろ計画しております。“四国霊場と遍路道の世界遺産登録”は、四県県民の大きな課題であり、民間の力の盛り上げ、協力がなくては不可能です。先の長いことではありますが、市民団体としてなすべきいろいろな活動に取り組んでまいります。

これからもみなさまの変わらぬご支援をお願いいたします。

以上



徳島新聞賞受賞の2団体&
2個人と審査員の方々。
前列中央は植田徳島新聞社
社長（関連記事は裏表紙）

特集 “四国遍路”

～四国遍路への思いや課題について

フリーに述べて頂いています～



今回は、会員以外の次の方からも特別に寄稿頂きました

お名前	所属・お仕事等	お住まい
山下正樹様	歩き遍路の会代表、 霊場会公認先達	奈良県 大和郡山市
樫本幸実様	日本ビオトープ管理士会 徳島県支部代表	阿波市
原 恵美様	遍路宿「碧」女将	阿南市
宮本光夫様	デザイナー 遍路写真家（遍路歩記）	徳島市
井出達海様	加茂谷へんろ道の会副会長	阿南市
小山実千代様	徳島県広域行政課	阿波市

「歩き遍路講座」10回を終えて

霊場会公認先達 山下正樹（大和郡山市）

今年は何国霊場開創1200年記念の年、どこの札所もお遍路さんがいっぱい賑やかだ！お遍路さんは、年間15万人位、そのうち歩き遍路は5千人くらいといわれている。私は、これまで10回の歩き遍路を体験した。「人生は遍路なり！」「人は生きているのではなく、生かされている」歩き遍路は、お四国の人々のおもてなし「お接待」に感動しながら厳しく・優しい大自然を実感できるすばらしい旅である！公認先達として「一人でも多くの方に歩き遍路に挑戦して欲しい」と考えている。しかし、歩き遍路に行きたいけれど、歩けるかどうかの不安や心配ばかりして最初の一步が踏み出せない人が多い。そんな苦しい思いの歩き遍路さんの背中を軽くポンと押してあげるためにボランティアで3泊4日の歩き遍路入門講座を初めて今年で10年になる。これまでの10回の講座受講者は266名、すでに130名が講座終了後も歩き遍路を続けて結願している。素晴らしいことだと思う。私のライフワークとして今後も毎年開催していくつもりだ。

今年の歩き遍路入門講座は、愛知県や大阪府などから40～80代の男女16名が参加して平成26年4月19日（土）、第1番札所・霊山寺から出発した。今年で10回目を迎える講座は、歩き遍路初心者を対象にして3泊4日で霊山寺～第17番札所・井戸寺まで約80キロを歩いた。ボランティアで参加した公認先達からお経の読み方、参拝マナー、地図の見方、歩くコツ等を学びながらの歩き遍路である。また、今年も、10回記念コースとして第1番札所・霊山寺から第23番札所・薬王寺まで7泊8日、約160キロの歩き遍路も同時に行った。奈良県から参加した山崎喜代治さん（70歳）は「4月に奈良県大和郡山市で開催された宮本光夫さん（徳島市在住）の写真展・遍路歩記展を見て感動してどうしても歩き遍路に挑戦したくなった。7泊8日、各地でお接待をうけ、四国の方々の優しさに触れて嬉しかった。講座が終わっても、仕事の合間を縫って時間を作って何年かかっても結願を目指して歩き遍路をしたい」と語った。

この歩き遍路入門講座は、毎年各地でお接待していただく方々、ボランティア参加の公認先達さん等々多くの方々のご協力のおかげをいただいて10年間開催してきた。これからも一人でも多くの方々に四国遍路、特に歩き遍路の魅力をお伝えしたい。次は20回開催を目指して歩き遍路入門講座を続けたい。できれば、いろんな事情でこれまで歩き遍路をしたことがない公認先達さんにも参加して欲しい！



平成26年4月19日 一番札所霊山寺にて

歩き遍路は、すべて自己責任の世界であり、自分の荷物は自分で持ち、全行程を歩くのは当たり前である。

いま、旅行会社のガイド付きの歩き遍路ツアーが大人気だ。ツアーではお遍路に必要な各自の荷物はバスが運び、納経も添乗員が全て代行し、身体一つのハイキング気分で歩き遍路を満喫できる。人任せの時代の典型的な旅だ。本来、歩き遍路は一人歩きにこそだご味があると思う。札所はもちろん、寄りたい別格札所、番外札所も探し、遍路道を調べ、必要な荷物や遍路用品を揃え、歩くために日ごろから心身を鍛えて準備をしてから出発する。そして大事なことはそれぞれの体力に合わせて歩き遍路をすることだ。その中に歩き遍路の喜びと苦しみ、達成感、だご味がある。歩き遍路ツアーは、自分からそれを放棄して旅行会社に丸投げしての遍路だ。いまの薄っぺらな世相を映し出した形だけの歩き遍路は悲しすぎるし残念である。

山下様の当会活動への様々なご参加、ご支援



お接待のシンポジウム (H25年)

由岐坂峠のクリーンアップ作戦 (H24年)
お遍路衣装の方



特別寄稿

共生の根っ子を考える ～ミミズもカエルも皆ごめん！～

日本ビオトープ管理士会徳島県支部代表 檜本幸実（阿波市）

徳島共生塾一步会の“一步会だより第16号”は、高野山開創1200年記念の年に伴い「四国遍路」がテーマとのこと。これへの寄稿ということで「さあ、何を・・・」と思案した末、遍路と共生について触れてみることにしました。遍路は、最初「辺路（へんろ）」と呼ばれ、霊場を巡拝することを「辺地（へち）修行」と言い、都から遠く離れた辺地（四国）は修験者の修行の道でした。修行から信仰へ、そして、観光、自分探し、癒し、と大きく変貌、更には世界文化遺産登録の動きもあります。白装束を身にまとい命をかけたかつての修行の道は、地域活性化の資源として期待され、ネット上には各札所に萌えキャラが登場するに至りました。そこで、持続可能社会の実現に向け、世界に誇れる文化遺産として「未来に残すべきは何なのか!？」について、皆さんと共に考えてみたいと思います。

1. 山川草木悉皆成仏

「山川草木悉皆成仏（さんせんそうもくしっかいじょうぶつ）」は、「山も川も草も木も、みんな成仏できる」と直訳されています。そして、遍路ゆかりの空海は「草木成仏説」をわが国で最初に唱えた人物だそうです。この思想は、日本の基層文化である神道と伝来の仏教が融合し、人間中心の仏教から、自然中心の仏教へと変身を遂げたとも言われ、宗教と信仰が一体化した哲学が生まれたと評されています。

意識は様々に表現されていますが、私が腑に落ちたのは「地球上にあるものが、その役割をちゃんと果たすことができれば、この世は安楽なり。」ということでした。万物に命があり役割がある、それを「ちゃんと果たすこと」これは正に生態系に通じます。私たちは文明という名の下に、山川を改変し、草木を切り払い、大地を占拠し、そこに棲む動物を虐殺または追放し、当然の如く地球（自然・生態系）を破壊（消費・汚染・人工化）してきました。これらへの反省から環境倫理が求められる現在、「山川草木悉皆成仏」という哲学は、持続可能（生態系の許容範囲内）な社会への良き「道しるべ」になりそうです。

2. 遍路道と一步会

まずは、「平成26年緑化推進運動功労者内閣総理大臣表彰」の受賞おめでとうございます。内閣府主催第8回「みどりの式典」で天皇皇后両陛下ご臨席の下、授賞式とのこと。私の知るところ、県内NPOを代表する「徳島共生塾一步会」は、環境美化等ゴミ問題の対策に始まり、公園づくりや道路の美化、生物多様性の保全活動など、グラウンドワークによる地域環境の改善を目的とした様々な取り組みを実践されています。中でも、ゴミの不法投棄の対策では県内はもとより、四国全域の活動へと展開されました。そして、遍路道の美化活動では中核的役割を担われ、環境共生の名の下に、遍路道再生にも大きく貢献されることと思います。願わくは、遍路の根っ子にある哲学を通じて、自然と共にある私たちが暮らす場所の有り様について広く説いて頂き、共生について一層の普及啓発に期待します。

3. 共生に潜む矛盾

環境共生について考えてみると、1992年の地球サミットを契機に「21世紀は環境の世紀」と称され「地球規模で考え、地域で（足下から）行動」を合い言葉に、様々な施策や普及啓発のイベントが盛んな

時期がありました。そして現在、環境と経済の統合や好循環、グリーン・イノベーションなど、環境対策とともに経済の発展を狙った取り組みが官民を問わず、また、国内外を問わず推進されています。地球温暖化防止、生物多様性保全を中心に、エネルギー問題、水や食料問題、人口問題など、いずれもそれぞれの対策と同時に経済成長をも成し遂げるべく、科学技術が駆使され、合わせて様々な分野において技術革新が求められています。ところが、環境と経済の共生と言う意味において矛盾する対策、つまり、ニセモノの環境対策も少なくなく、これらの根っ子を考えていくとカラクリに気付きます。そして、このカラクリに不都合な真実が隠されています。この不都合な真実をしっかりと見つめ立ち向かってこそ、持続可能な未来が見えてくるはずですが、しかし、この真実に立ち向かうことは、ともすれば現代社会を生きることが困難になるというジレンマが立ちはだかってくる現実があることも否認しません。環境と経済の好循環、経済というオブラートに包み隠された環境問題の根っ子、不都合な真実を見だし解決していきたいものです。

4. 文明(科学)と文化(風習)

今や電腦社会の発展は止まることを知りません。神の領域とも言われる生命科学も大きな発展を遂げつつあります。こうした中で、自然の猛威を見せつけた 3.11、そして、科学技術の脆弱さを露呈した始末に負えないエネルギー源の恐怖、これが顕在化しました。石原慎太郎氏の天罰発言が耳に止まり、私が母から聞いた「お天道様が間引きをしている」と、災害の度に発したという祖父の言葉と重なりました。両氏共に、被災者に向けた発言ではなく、日本人の我欲への戒めであり、自然への恐れからでした。自然の崇りのご利益、因果応報、いずれも文明が支配する現代社会では死語に等しくなりました。しかし、[崇り]が忘れ去られる一方で、[ご利益]を求めるパワースポットのブームは何を物語っているのでしょうか？ 自然を畏れ敬い、謙虚に礼節をもって恵みをいただく、これが日本文化の根底にあり、今なお、私たちの深層には存在しているはずと信じています。2010年の生物多様性 COP10 では、自然共生社会の実現を長期目標とする SATOYAMA イニシアティブが日本から世界に向けて発信されました。わが国では、各地で里山再生がブームともなる中、森(守り:杜)と林(生やし)の成り立ちを理解し、縄文の時代から脈々と受け継がれてきた自然を畏れ敬う日本の基層文化を見つめる機会としたいものです。そして、縄文後期から始まった焼き畑を起源に近代まで受け継がれてきた[自然と同調する暮らし]の根っ子の理解につなげていきたいですね。自然と隔絶して暮らす現代人が[自然と同調する暮らし]を取り戻すことは容易ではありません。このことから、今こそ、風習、土着、郷土、風土、これらに表される地域の自然や先人の知恵を見つめ直し、近代文明と伝統文化の融和という道が選択されることを願うばかりです。…1200年の時を越え、自然と共にあった空海を偲びつつ。(2014/04/20)



遍路道と遍路宿の縁

果樹オーナーの宿&遍路宿 碧(あおい) 女将 原 恵美 (阿南市)

私は20番鶴林寺様・21番太龍寺様に近い阿南市加茂谷地区で、宿をしています。

農家民宿として営業していましたが、4年ほど前に、阿波の難所の2つの山越えが大変で、途中に宿が無い「お遍路さんは一気に2つの山を越えるしかなくて困っている、鶴林寺下まで送迎してお遍路さんを受け入れてもらえないか」と他のお宿やお遍路ボランティアの方にお声をかけていただいてから、お遍路さんにお泊りいただくようになりました。

私も主人も四国で生まれていますので、お遍路さんが歩かれる姿も、お接待の文化も、特別なものではなく当たり前のこと。しかし、宿としてお遍路さんに接するという事となると別でした。

私は、観光業に長くおりましたが、今まで仕事で接してきたお客さんというのは楽しむ為に旅に出ている方ばかり。しかし四国遍路は全く違う。それに、お遍路文化が当たり前の中で育ったといっても、実は何も知識がないことに気が付きました。まずは、近いところは歩いてみたり、いろいろな本を読んだり、勉強することから始めました。

そんな時に、四国最古の遍路道かも道が地元の加茂谷に存在するということを知りました。地元にながら長い間、阿南市文化振興課の向井さん達が調査や整備をされていたことを全く知りませんでした。歩いてみると『なんて素晴らしい道！』こんな歴史的な道が近くにあるってすごいこと！

このかも道復元をきっかけに「加茂谷へんろ道の会」が結成され、私たちもメンバーに入れていただきました。今は、太龍寺様から先のいわや道・平等寺道をこの1200年の記念の年に復元させたいと頑張っています。

そして国の史跡から、世界遺産へ！が私たちの目標です。世界遺産には賛否両論あるでしょう。でもこの文化を守るためには大切なことだと思っています。今、遍路道を保存しようと頑張っている方々のほとんどは高齢の方々です。お接待団体の方も、遍路宿も高齢化が進んでいます。あとに続く若い人たちはまだまだ無関心です。四国にはこんな世界の宝になるような文化や遍路道があるということに興味を持ってもらわないことには、やがてこの文化は無くなってしまいます。ずっと後世に伝えていくために世界遺産化は大切だと私は考えます。

経済効果…そんなものは後からついてくるもので、決してそれが目的とは考えていません。永く永くこの文化が続きますように願っています。

そして、四国霊場開創1200年の年に、それに関われる仕事ができること、たくさんのご縁に感謝しています。

お忙しい仕事の合間に撮られた
原様ご夫婦の写真(碧のHPより)



遍路歩記・デザイナー 宮本光夫(徳島市)

四国八十八ヶ所霊場巡りの旅に、歩いて行くことにこだわって15年になる。年末年始や、ゴールデンウィークなどの休みを利用して、1週間から10日ぐらい出かける。1日約8時間、20km前後を歩くので、私にはちょっとハードな旅である。でも、歩き始めるとおもしろいので今も続けているのだが、では「何がおもしろいのか」といわれると、その答えをうまく説明できない。

ある大先輩いわく、「歩き遍路って不便で、不安で、辛い中を、自分の足で歩く。すべて自己責任の旅」なんだそうだ。暑かろうが、寒かろうが、雨も雪も、山も海も、国道も、商店街も、菅笠と白衣に金剛杖を手に、札所を目指してひたすら歩く。そこでは何があってもありのままを受け止めなければならないという。だから一人旅が理想。



私の場合は区切り打ちだが、通し打ちといって四国を一気に巡る人は、40日から50日を歩き続ける。多くの人は民宿や宿坊など利用するが、費用の加減で野宿をする人やテント泊の人もある。なにせ、しんどい旅である。

ただ、そのしんどさが「くせ者」のように思う。歩き始めて3日もすると思考が単純になる。大袈裟に言うと野生化してくるのだ。常に道標を追う目、肩にくだり込んでくるザックの重さとの闘い、靴の底から伝わる路面の傾斜や

突起に敏感になり、時に土砂降りの雨に無抵抗になる。そして1日の行く先を見て進む一歩の小ささに不安になり、へろへろになって道を振り返って、よくぞ歩けたと安堵することの繰り返し。

次第に歩きの速さに身体が順応してくると、新緑に透ける木漏れ陽、ふだんは見向きもしない草花がきれいと思ったり、用水のカニや小魚の影をキャッチしたりする。ゴールデンウィークでは、子どもが大切にされているのを感じる家の鯉のぼり、年末年始は、里帰りした県外ナンバーのクルマも大掃除中の家、大漁旗のはためく新年の漁港などを眺めながら行く。もうそこでは「めんどくさいこと」のない平和に浸れるのだ。そして「良心市」で買って食べるトマトや、地べたに座っておにぎりとかくあんだけの弁当がこの上なくおいしく、おもわず「うま！」と声が出る。ほんの些細なことの中に、生きていく喜びに気づき、単純に「いいなあ」と思える。さらに、お店のおねえさんが「どうぞ」って小夏を切ってくれたり、おばあさんが「おへんろさんちょっと待って」と小走りでお店に戻って、冷えたドリンクをくれたり、子どもたちが「こんにちは」と後ろから声をかけてくれたりすると、透明感のある人や自然のやさしさに気づくのです。

それはうれしいを通り越して、ありがたく大事な経験として心に刻まれる。このままの世界に浸ってしまうと迷子のまんまだが、俗世間に戻り、その対比の中で気づくことがいっぱいあって、進むべき道が見えてきたりする。四国の懐は深い。

徳島県は超1級の河川・吉野川に代表されるように、豊かな自然の山々、河川に恵まれており、いろいろな形で恩恵を受けています。第2の川と言えば那賀川があり、地図上でもその那賀川の中流域でひときわ大きく蛇行している所、そこに私達が住む阿南市大井町があります。大井町の山の頂上には20番札所・鶴林寺があり、大井町に下りてきて、那賀川を水井橋経由で向かう山頂部に21番・太龍寺があります。このように、へんろ道が大井町の中心部を通過する地形柄、私たちは幼少の頃からお遍路さんに接してきました。車社会でない往時には遍路宿が3軒あり、盛況を極めた一時代がありました。

このお遍路さん、時代とともに姿・形は様変わりをしてきたように思いますが、けれども、私たちがお遍路さんに相対する気持ち・想いは少しも変わりません。「おはようございます」「こんにちは」「どこから来たんで」・・・の言葉は、誰に教えられというでなく、村の人と接するのと同じように声をかけてきました。そして、同じように「ありがとう」の言葉をもらい、「太龍寺まで遠いけん、どうかお気を付けて」と声をずっと添えてきました。物品の提供にはなかなかいきませんが、今になって、これがお接待の一つであるということがわかってきました。

それにしても、88寺を40余日間で歩くお遍路さんは本当にすごいと思う。そして、以前より年令がはるかに若くなってきているのが、近年の特徴です。

20番から歩いて大井町に下りてきて県道19号線と交差する所に「大井休憩所」いわゆる「あずまや」があり、近くに水洗トイレがある休校中の大井小学校があり、一夜の野宿の場所として利用されています。

秋の季節ともなれば町民からいつもみかん他が提供されています。1番から歩いて5～6日目に大井町に来られるようで、足が痛くなりはじめ、タクシーの手配を懇願されることも珍しくありません。

定期的に、20番からおりてくる遍路道の修復作業と草刈り、トイレのある小学校の草刈り等ずっと町民一同が整備を続けています。案内板、看板の重要性から設置のし過ぎはなく、順次増やしていっています。お遍路ノート・納め札箱・1輪挿の花・竹の杖多数と、どこにでもみられる光景が、大井町でも実行されつつあります。お遍路ノートに全国各地から、また英語の文字に韓国文字、その文章を読んでいると、書かれた方の顔が浮かんでくるようです。

疲れた体をしばし休息させ、県下2番目の難所20番から3番目の難所21番に向かって、いざ出発の心構えをする所、それが大井休憩所です。

私共大井町民はお接待を提供する側ですが、昨年感激する出来事がありました。平成25年11月より3回という多数回、大井小学校でどうぞと言われて、貴徳島共生塾一步会様よ

り多数のトイレトペーパーと手製の肩たたき棒を寄贈して戴きました。以前から地元が提供していましたが、半年を経過している今でも、貴会の分で非常に喜んでもらっています。本当にありがとうございました。

お遍路の方々みんなそれぞれの想いをもって歩かれていることでしょう。四国遍路開祖1200年の記念とされる2014年に私どもは現実には直面しております。車で一巡されるもよし、歩きお遍路の方々も、徳島県の田舎の町、阿南市大井町に是非またお越してください。わたしたちは、喜んでお迎えします。そして、この片田舎の大井町の空気を吸ってください。他の町村と同じように、またそれ以上に過疎化の波は、わが町わが村にも押し寄せてきています。けれどもお遍路さんに対する気持ち・想いはどこにも負けないとみんな自負しており、そして時代は変わっても、是非とも継承していつてもらいたいものと思う昨今です。

合掌



平成25年11月17日 一歩会主催の“鶴林寺道・太龍寺道ウォーキングイベント当日、大井町のあずまや前でお接待頂いた方々。右端が寄稿者の井出様
(写真は新開提供)

私にとって、「四国八十八箇所」や「お遍路さん」はとても身近な存在である。

実家は、第18番札所「恩山寺」から第19番札所「立江寺」に至る遍路道沿いにあり、1年を通して、家の前をお遍路さんがよく通っていた。実家には、昔行き倒れになったお遍路さんのものと代々伝えられる「お墓」もある。また、通っていた小学校は、「恩山寺」の麓にあり、「写生大会」など様々な行事で「恩山寺」を訪れた。通学路でも、お遍路さんに道を尋ねられたという記憶も多々ある。大人になって、宗教を問わず、「お遍路さん」が胸にそれぞれの思いを抱え、巡礼していることを知った。幼少の頃出会った数々の「お遍路さん」が、様々な苦難を背負い、何かにすがりたいという思いで「四国遍路」を巡っていたと思うと、感慨深い思いがある。私も、10数年前から「四国遍路」を巡り始め（車だが・・・）、あと10箇所程度残っているという状況だ。きっかけは、やはり「何かにすがりたい。」という思いだった。24歳で結婚し、すぐに子供に恵まれると思っていたが、1年経っても2年経っても恵まれず、不妊治療してもだめ。そんな中、以前「四国八十八箇所」を結願した義父母から気分転換になると勧められたのが、「四国遍路」だった。「赤ちゃんが授かりますように。」という願掛けをして巡り始めた。休日に少しずつ巡った。「これを巡っていれば、いつか赤ちゃんが授かる。」と信じて巡っていた。2年ほど経って、本当に願いが叶った。いくら不妊治療しても授からなかった赤ちゃんが、自然に授かったのだ。

「四国遍路」を巡っていると、様々な年代の人に出会い、声をかけてもらい、心が穏やかになった。精神的な安定が自然妊娠につながったのかもしれない。数年後、3歳になった娘と、中断していた「四国遍路」巡礼を再開した。それは、この上ない喜びだった。そんな娘も今はもう10歳。10数年かけて、もうすぐ結願できそうである。縁あって、4月から「四国八十八箇所霊場と遍路道」世界遺産登録に関わる仕事をさせていただいている。様々な思いを抱く多くの人々を受け入れ、支え続けてきたこの文化を、責任を持って、後世に伝えていかなければならないと、今強く感じている。

【事務局より】

**“アニメおへんろ”が人気
急上昇中です。
是非、見てください。**



テレビアニメ「おへんろ〜八十八歩記〜」は、若い女の子3人が、わけあってお遍路の旅にでて、札所周辺の名所やグルメを紹介し、ストーリーが展開されます。

徳島新聞毎週火曜日に連載中、

徳島ケーブルテレビ毎週日曜日 21:30～22:00 で放送中

遍路道クリーンアップ大作戦「最初の最初」

会員 谷口右也（那賀町）

1. 遍路道クリーンアップ大作戦の「最初の最初」

あれは何年前だったか？徳島新聞に掲載された県外からのお遍路さんの嘆きの投書。（右に紹介）。

「四国の人には、お遍路さんには心やさしいが、自然にはひどいことをする。歩き遍路の道中、大規模なごみの山に遭遇した。」というような内容であるが、これが発端。クリーンアップ大作戦の「最初の最初」だった。

これを読んだ新開理事長、「この問題を何とかしなければ、四国の人間の恥だ。四国に住む人間が解決すべき問題だ。」と、一步会の役員会の中でも、取組みを危惧する声があった中、強い決意で動き出したのだった。

2. 遍路道クリーンアップ大作戦から学ぶ「当事者性」

その後の「阿南市新野・福井」から始まり、「徳島市の眉山越え」、「阿南市阿瀬比・加茂谷」、さらには、遠く四国全域にまで広がったサクセス・ストーリーは、他の方がお書きいただいている（？）と思うので省略。

私は、ボランティアであれ仕事であれ、もっと大きくは政治であれ経済であれ、一番大事なことは、ここにみる新開さんのような「当事者性」であると考えている。

「当事者性」とは、ご承知のとおり「目の前の出来事や課題、世の中のしんどいこと、困ったこと等々を、他人事ではなく、自分の問題としてとらえる。」ということである。

遍路道沿いのごみの山は、誰もが見苦しいと感じ、問題だと考えつつも、「自分には直接関係ない、自分が捨てたわけではない。」とみんなが傍観した中、新開理事長が、「自分（たち）の問題だ」と立ち上がり、大勢の人の心を動かし、そして解決に向かった。

今、世の中で、大きく不足しているのは、この「当事者性」だ。

一番大きなものは、国の1,000兆円余りの借金（失礼ながら、国会議員も官僚も自分自身が原因の一人であり、返さなければならないお一人であるとは思っていないのでは？）からはじまり、地域づくりやボランティア、近所づきあいまで、なかなか希望を見出しがたい世の中である。

そんな中での遍路道のクリーンアップ大作戦、今回の一步会の内閣総理大臣表彰受賞は、時代が求める「地域の課題を住民自身が解決」するということに対し、額に汗して頑張ったご褒美であろう。

手紙の要約

四国の皆様お世話になりました
それにしても、あのごみは
2年前、43日間かけて遍路道を歩きました。数々のお接待を頂き、経験したことがない感動を味わうことができました。そして今回、また四国を訪れ、前回とほぼ同じ日数で歩き、結願することができました。
ところで前回の旅で気になったことがありました。道に捨てられているおびただしごみでした。冷蔵庫、自転車、発泡スチロールの箱…。恐ろしいような光景でした。
近年、地球規模で環境問題が論じられ、さまざまな取り組みが進んでいます。こうした流れを反映して（今回は）四国のごみも減っているだろうと思っていました。ところが、その実体は前より悪くなっているとしか言いようがありませんでした。
人に対してあれほど親切な四国の皆さんが、なぜ自然に対して過酷に、そして非情になれるのか分かりません。四国の山河を、これ以上汚さずに次の世代に渡してほしいと思わずにはいられません。
愛知県岡崎市 宮本重剛

一步会の動きを変えた1通の新聞投書

3. 遍路道クリーンアップ大作戦から、わが身を振り返ると

さて、では最近の自分自身の当事者性は？と自問すると、少々心もとない。

4月、久々に県庁に異動。ちょうど実家の田植え時期と重なり、父亡き後の「年老いた母との共同作業」という名の「一人作業の田植え」。

日々、片道1時間半の通勤をこなすうちに、先週末には「突発性難聴」との診断もいただき、世の中に、心を配る暇（いとま）とて余りなくなってきた。

が、よき人生の先輩や仲間に恵まれ、仕事では活躍の舞台も与えていただいている。

ただ一言、「このままじゃいかんな」とつぶやく、昨日今日の私である。

4. 遍路道クリーンアップ大作戦のおまけ

話は変わり、眉山のクリーンアップで、お一人だけ、「大変」というか、「超」というか、アンラッキーな人がおられた。お名前は知らないが、金融関係に従事していた人らしいが、不要となった通帳類をきちんと処分せず、遍路道沿いのごみの山の中にカバンごと捨てていたらしい。で、この大作戦が始まり、「無事発見」され（てしまい）、警察に届けられ、持ち主が分かり、結局は大目玉だったとか？



かも道ウォーキング(平成26年1月26日)

「天網恢恢（てんもうかいかい）疎（そ）にして漏（も）らさず」。

悪いことをしてもわからないや、と思っているも、所詮は「お釈迦様の手のひらの上」、最後にはわかってしまいますよ、との意味らしい。

こんな教訓も思い浮かぶ、遍路道クリーンアップ大作戦ので「振り返り」でありました。



平成16年5月17日阿南市福井町で最初の清掃作業に参加の筆者（右端）

遍路道を大切にしたい

会員 計盛幸雄（阿南市）

☆.遍路道の清掃活動で感じること

海岸や奥地にある遍路道が車道化され整備されると、生活ゴミの不法投棄場所となっているのが残念です。清掃活動参加者や協力者の一生懸命な姿に感心致します。ゴミ投棄者に負けない気持ちと、皆でやればできるという勇気と根性を教わります。

☆.遍路道ウォーキングでの参加者の反応 <1月26日 かも道は大龍寺へと歩く>

100名近い方が県内外から参加されていましたが、お話を聞くと「何回まわっても四国の道は美しい」、「家族一人一人がゴミ袋を持って歩くのです」、「前回お接待で頂いた小物はお守り代わりにリュックに入れてあります」、「歩かせてもらっているのです・・・」これらの言葉は胸に染みしました。到着後に小雨の中、参加者のグループが本堂前で行う読経や、ご詠歌の響きが心地よく聞かれました。



かも道には史跡がいくつかある

☆.先の全国歴史の道会議徳島大会に参加して

当日は嵐のような天候の中でしたが、関心のある方が大勢いると感じました。

個人的には、学識者と共に調査研究した学生に郷土の文化を大切に継承してもらいたいと期待を抱くと共に、このような場に参加があり、子供達が大人とともに地域の歴史や文化を学ぶ、機会があれば、他県の方や、他国の人、異文化との交流にも役立って行く、また子供達の健全育成につながる大切な物を秘めていると思いました。



県との協働で開催した「かも道」ウォーキング

富士山が世界遺産になりましたが、観光ビジネスや、観光客数の事のみでなく、自然環境や歴史、文化を守る事の大切さを知る場となってほしいと思いました。

☆.皆様にとって遍路道とはどんな存在ですか。

私にとっては、「出会いの道」とでも言いましょうか、人と自分と自然との出会い。サンキューとその一言で別れた人が世界中にたくさんできました。改めて感謝をし、自分の影法師をふっと見つめる小道、澄みきった鈴の音が遠くに聞こえる空の道や海の道で仏の風に触れた時、自然環境の大切を感じ、人として歩くことを忘れないように教えられる修業、道場の道である。 以上

歩き入念のテーマ <small>日岡裕純子</small>	①この道は何の道 どこまでも遠く 空へ空へ続くやう 海へと続くやう 何かに抱かれて どこまでも歩こう はらはらはら こぼれる涙 花に 花になれ あーあー 空に抱かれ あーあー 海に抱かれ	②省略 あーあー 風に抱かれ あーあー 仏に抱かれ
---	---	---------------------------------



大龍寺の（さ）詠歌	大龍の常にすむぞや げに岩や 舎心聞持は 守護の為なり 南無遍照尊 南無遍照尊
------------------	--

歩くことに意味がある

一步会会員 内田武男

2014年4月7日にNHKで放送された「プロフェッショナル“仕事の流儀”」で、小惑星探査機「はやぶさ」に搭載されたイオンエンジンの開発者で宇宙工学者の「國中均」さんが紹介されていました。

「はやぶさ」は2003年5月に内之浦宇宙空間観測所から打ち上げられ、数々のトラブルに遭遇しながらも、小惑星「イトカワ」からサンプルを持ち帰り、2010年6月に地球に帰還。多くの人に夢と希望を与えたことで有名になりました。

國中さんは、この世界初のマイクロ波型イオンエンジンの開発者です。20年以上の歳月をかけて開発に携わってこられたそうですが、「はやぶさ」に搭載されることが決定するとともに、タイムリミットが5年に。

なかなか成果が得られない中、時間だけが過ぎていく。そんな状況の中で國中さんを支えたのが「ゆっくりでも、止まらなければ、けっこう進む」、「歩いてでもいい、でも止まってはいけない」という恩師の言葉だったそうです。

その時私は、以前読んだ本の中に、『「歩」という漢字は「止」と「少」の二つの文字から成り立っている。「止まる」ことを「少なく」すれば、確実に前に進む。』と書いてあったことを思い出しました。

走ることも、早く歩くことも意識する必要がない。ゆっくりでもいい。「歩く」ことは、確実に前に進むことになることを、改めて感じた瞬間でした。

ところで、四国遍路は、開創から今年で1200年を迎えるということで、NHKで「四国遍路1200」キャンペーンが行われていて、いろいろな番組が放送されています。

先日、その「四国遍路」に関する番組の中で、「歩き遍路」を経験された方たちが紹介されていました。

人それぞれの「遍路」の目的があることと、「遍路」を経験することで、それぞれの人が「貴重な経験」をされていることが伝わってきます。

まだかわいい少年に対し、「ゆっくりでええよ」と言葉をかけるシーンを見たときに、「止まらなければ、確実に前に進む」ことができるという言外の意味が込められているのを感じました。

「遍路」を終えた少年は「前に進むことができた」と感じたのでしょう。「成長した自分」について話していました。

「歩き遍路」は、「歩くことに意味がある」あるいは、「歩くという行為の奥に意味がある」ということでしょうか。

一步会の「遍路道美化」の活動は、「一步会」の名の通り、止まらずに歩いてきた活動ではありますが、それゆえに、「活動の奥にある意味」を考えさせられます。特に、世界遺産登録の動きと合わせて、深く考えることの意味と、その必要性を強く感じます。



鶴林寺道ウオーキング（平成 25.11.7）

空海の道ウォークのお接待

会員 瀬尾規子（吉野川市）

鴨島町には、四国霊場 11 番札所藤井寺があり、10 番札所切幡寺から 11 番札所を結ぶ川越えの遍路道と、11 番札所から 12 番札所焼山寺を結ぶ山越えの遍路道があります。

地元でまちづくりの活動をしている「かも研究塾」は、この歴史的な地域資源に注目し、20 年前に 11 番札所から 12 番札所を歩く「最後まで残った空海の道ウォーク」（15.6km、約 7 時間の行程）を始めました。

5 年後には、10 番札所から 11 番札所を歩くの「四国三郎をまたぐ空海の道ウォーク」

（14.2km、約 3 時間半の行程）も同時に開催されるようになり、国土交通省の協力を得て、遍路道が整備されました。江川の湧水源には、お遍路さんが休憩できる「いやしの舎」とトイレができました。

空海の道ウォークは、毎年 5 月の第 3 日曜日に開催され、全国各地から 700 を超える人が参加する一大イベントになっています。

（開催目的：1200 年前、空海が歩いた時の自然がそのまま残っている唯一のへんろ道を歩き、自然や山野に親しむとともに、山間地域の良さをこの道を通じて広く、多くの人々に紹介する。共催：吉野川市、神山町、阿波市）

私が所属する NPO 法人江川エコフレンドは、毎年「いやしの舎」がある江川の湧水源で、参加者に麦茶や地元の野田ハニーの「すだちパーモント」などを提供して、お接待しています。日頃、江川の清掃活動に参加している中学生もお接待に参加しています。また、名水百選に選ばれている湧水源に案内して、水温の異常現象（夏は 10 度、冬は 20 度になる水温の逆転現象）などの説明をしています。



江川エコフレンドのお接待のようす



1200 年もの間、ずっと受け継がれてきた奇跡の四国遍路は、貴重な歴史的文化遺産です。最近、白装束を身にまとった歩き遍路の外国人の姿もよく見かけるようになりました。私たちは、日本人のみならず世界の人たちも魅了している「いやしの道」をいつまでも美しく後世に残さなくてはなりません。空海の道ウォークのエリアでは、かも研究塾、ほなげんど切幡、焼山寺保勝会、左右内振興会、江川エコフレンドなど地元の人たちが、通年ボランティアで遍路道の清掃活動を行なっています。大切な地域資源を地域の人たちが率先して守って

います。

私は、吉野川や国道などのアドプト清掃作業のように「遍路道アドプト」清掃作業を呼びかけてはどうかと思います。88ヶ所に因んで、8月8日を四国一斉の遍路道清掃作業の日にするこ

とを提案します。遍路道の清掃を通して、四国の人々の輪ができ、四国遍路が世界遺産の登録に繋がっていくことを期待しています。

遍路道の清掃作業を続けてきた「かも研究塾」と江川の清掃作業を続けてきた江川エコフレンドは、5月に鳴門市で開催される第25回「みどりの愛護」のつどいで大臣表彰を受けることになりました。これからも「来て、見て、楽しい地域」を作っていきたいと思います。

平成26年度空海の道ウォーク出発式



出発式の吉野川市長と神山町長



500人が難所コース“遍路ころがし”に挑む

この夏はアサヒビールを飲もう！

「アサヒビール」と「アサヒ飲料」は、四国遍路の世界遺産登録を応援しています。対象商品の売上げの一部を世界遺産活動に寄付頂いています。同社の地域貢献キャンペーン“元気な四国へ”の一環です。

徳島県においては一歩会の活動資金に寄付いただくことになります。

下記のラベル付き商品を飲んで頂くようお奨めすると共に、周囲にも声掛けや話題提供してください。

- アサヒ缶ビール（スタイルフリー） 350ml 500ml **1缶に 1円**
- アサヒ麦焼酎「一番札」 900ml 1800ml（1升瓶） **1本に 5円**
- アサヒ飲料「ワンダ」 6本パック **1パックに 3円**



富士山に続く世界遺産登録への小さな動き

会員 富田欽二（小松島市）

世界遺産登録への道

四国4県と関係市町村で、世界遺産暫定一覧表記載候補として再提案していた「四国八十八か所霊場お遍路道」は平成20年9月開催された国の文化審議会世界文化遺産登録特別委員会に置いて、世界遺産暫定一覧表への記載が見送られましたが、『生きている伝統』を表す資産として価値は高いとされ、『提案書の基本的主題を基に準備を進めるべきもの』と高い評価を受けた。そこで4県では世界遺産登録に必要なとされる構成資産の文化財指定による保護措置について平成21年より『遍路文化』を構成する資産の内『遍路道・札寺院』の史跡指定による保護措置について平成21年度より『遍路文化』を構成する資産の内『遍路道・札所寺院』の史跡指定による保護処置に向けて関係市町村と連携して取り組んでいる。徳島県では第20番札所鶴林寺から第21番札所太龍寺をつなぐ遍路道が平成22年8月5日に国史跡『阿波遍路道 鶴林寺 太龍寺 いわや道』と指定されました。世界遺産の動きは進んでいますが、我々、徳島共生塾一步会では昨年9月17日、「歩き遍路とお接待を考える」シンポジウムを文理大のモートン常慈先生などをお呼びし80人が参加して開催し、そして11月17日には、本番イベントともいうべき“鶴林寺遍路道のウオーキング”には70余人が参加して大いに盛り上がりました。

これからの課題

昨年6月22日には、世界遺産に登録された富士山で活躍された静岡県三島のグラウンドワーク三島の事務局長 渡辺豊博氏を講師に迎え講演会「世界遺産と環境問題」を徳島ろうきんホールで開催した。富士山は、夏には30万以上が押し寄せるオーバーユースの状態、ごみ問題、それにトイレはおがくずを使った100円水洗トイレ30カ所の設置、入山料の徴収など大変だったとの話が聞かれた。これらの問題なども含め、これからは四国4県が世界遺産登録目指して、地域住民と一体になって、世界文化遺産ということの認識を深め、まちづくりや環境の整備なども考え、おもてなしやお接待の文化を盛り上げなければならない。世界遺産への道は、まだまだ険しく遠い。



平成25年11月17日 鶴林寺道ウオーキングの参加者
(阿南市大井町にて)



一步会に入会して

会員 姫野博司（阿南市）

私はこの度、一步会に入会させて戴きました。私と一步会の初めは一昔前になりますが、滋賀県の愛東町（現、東近江市）に一泊の研修旅行に参加したことに始まります。この時ゴミに対する姿勢の違いを思い知り、又、講演では玉井先生の『自己活性化の実験』にこんな生き方があったのかと、目からウロコが落ちた気がしました。その本も本棚の何処かにはあるはずですが今、手元にないので正しい内容をはっきりと思いたせませんが、その時から玉井先生の教えに沿って、時々ですが自己活性化の実験ノートを取っています。先生はその日に何を見たか、聞いたか、味わったか等、あらゆる物から

①何を思ったか ②そして、何をやったか ③やって、何を学んだか、この3点をノートにして自己活性化を図る。これが先生の教えだったと思います。私の初めてのページは2008-7-8になっています。これを転記して、内容の紹介にします。

何を見たか：映画「クライマーズ ハイ」を妻と観る。

- ① 「何を思ったか」クライマーズ ハイとは 生きていることを実感する事か 生きている限り「生き生きと生きよ」と哲学者ゲーテの言葉にあるようです。
- ② 「そして、何をやったか」文庫本を数冊購入、私の書棚は7割が文庫本です。其れも定年退職してから購入を止めていましたが、これを機に時々購入する事にしました。
- ③ 「やって、何を学んだか」人生は一回しかない。其れなら本を読んで、人の人生を知るしかない。何に対しても素直に感動する心を持つ大切さを思う。

最後のページは2014-3-26で、次の様になっています。

何を聴いたか：「昔の同僚に88ヶ所を歩き、遍路体験談」を聴く。

- ① 「何を思ったか」私も歩き遍路を体験したい。
- ② 「そして、何をやったか」岩波新書「四国遍路」再読した。
- ③ 「やって、何を学んだか」話をした同僚が本と同じような感想を述べる。

寺と寺の間に、お地蔵さんが居るようだ、終わってからは、達成感に満たされ、お接待など人との触れ合い一期一会の深さを、巡礼と云わず遍路という分は自分と向き合う1300Km余歩く事で、分る事だと思った。

私も一步会に入会して遍路道に不法投棄されたゴミ拾に参加しましたが、そのごみの膨大な量にびっくりしました。ゴミ拾いの段階を通り越しています。遍路は一人歩きでも、同行二人と云われ、お大師さまが付いて居てくださると云う、その道を不法投棄のごみで一杯にしては恥ずかしい限りである。一步会は身近な環境問題や地域の緑化、さらに遍路道の清掃へと幅広い活動をされていますが、この度、この活動が認められ総理大臣表彰に輝きました。及ばずながら、その一步会に入会出来ましたので、遍路道の清掃行事に参加して、四国遍路開創1200年と云われ、世界遺産登録を目指している四国の財産を更に価値ある物とするお手伝いがしたいと思います。

20数年前だったと思いますが、富士山を世界遺産に登録しようと、活動されていた人の著書を読んだ時、最大の問題はゴミであり、トイレの問題だとバイオトイレの普及に地道な活動を続けておられました。その富士山も世界遺産に登録されました。四国歩き遍路道にも、最近外国の方が多く見受けられます。そんな人々を通じて、世界に広まってこそ、世界遺産の道が開けて来るように思います。こんな思いを強く感じながら、遍路の奥深さを知る為にせめて、徳島23ヶ寺の、歩き遍路に出かけたいと、夢見ている、この頃です。



一歩会の環境活動（遍路道清掃）について

会員 米川比呂士（那賀川町）

私が、一歩会で遍路道の清掃及び環境活動に参加してはや3年がたちます。3年の間に遍路道は随分綺麗になったなあと思います。もちろん一歩会の皆さんの貢献もさることながら他に清掃や遍路道の文化を守るボランティア活動をされる方も増えたからだと思います。

これも一歩会の諸先輩が10年に渡って清掃活動に取り組まれた賜物だと思います。本当に頭が下がる思いです。この3月でしたか立江寺から勝浦の沼江の方向に歩いていかれる外国人を見かけました。朝の11時頃の清々しい気候で白装束を身にまとい本当に満面の笑顔でした。それを見て私は車を止めてお話をお聞きしたいと思いましたが元来の引っ込み思案とおまけに外国語を話されたらどうしようという思いでそのまま行き過ぎてしまいました。

後で後悔しましたが、私はその方に見知らぬ外国に来てなぜそのような笑顔になれるのかお聞きしたかったのです。なぜそのように考えたかと申しますとそれは私にとって何か一番大切なもの、過去に自分が得ようと思って得られなかったものが見つかるかもしれないという思いが頭によぎったからでした。

遍路道について一筆ということですが私は未だに八十八ヶ所参りはしておりません。ですから一度は健康なうちに気の向くままに歩き遍路をやってみたいという気持ちがあります。県内の道は車等で行っただけですので人には偉そうなことは言えません。しかし個人的に思ったことを拙いながらも書いてみようと思います。

30歳をすぎるまで自分の人生は本当に体だけは丈夫で仕事も順調で暮らしもなんとかできていました。40代になって仕事において良くないことが重なって生活も苦しくなりました。小さい子供がおりましたので何とか臨時の仕事をやりくりしながら頑張っていました。50歳過ぎて今度体の方が悪くなりました。他に周りにも問題が多くなっていきました。その時になってやっと何が大切であるかということが少しずつ気づき始めました。父が亡くなり、兄弟とも疎遠になり健康も失ってはじめて何が大切であったかわかった気がします。後悔先にたたずと言いますが過去に遡ってもう一度人生をやりなおすことができたらなあ思います。

今私に大事だと思うこと、それは人と人との心のつながりであり感謝する心と思うのです。そのことを大事にしていけたらもっと人生を楽しめるものにできたかもしれません。昔お遍路さんの中には旅の途中で息絶えても身元がわかるように懐に名前と札金を入れていたということをお聞きしました。当時は本当に辛い旅だったのかもしれませんが願いを叶えようと

いう思いが人々を遍路道に誘ったということなのでしょう。

今年には弘法大師がご開創されて 1200 年という節目であります。そして遍路道を世界遺産にしようという運動も盛んになってきておりますが私はこれからずっと遍路道を存続するには、世界遺産登録は必要だと思っております。しかしそれだけでなく私にとって遍路道は、心をいやす場所であり苦悩を解決する道であってほしいのです。これから先も昔と変わらず何百年も修行の場としてお接待のような人と人との心のつながりを大切にする場所であってほしい、これが今遍路道の活動に取り組んでいて私が常に大事にしたいと思っていることです。

もうひとつ一步会が総理大臣表彰をいただいたことについて少しばかり感想を書きます。私は総理大臣表彰は日本でいただける最高の賞と思っております。賞をいただいた理由として一步会が 10 年に渡っての無償のボランティア活動が日本中の国民に評価されたと思っております。この賞は一步会の皆様全員の協力のお陰でありなかでも遍路道の清掃活動の先駆者となって一步会を導いてくださった新開理事長、先頭に立って指導してくださった山田さん、富田さん、三田さん、計盛さん、十川さん、小野さん、川井さん、山室さん、昭和町公園管理でいつも頑張ってくれた私達を指導して下さる小松夫妻 一步会みんなの力が結集したおかげでいただいた賞であります。これからも一步会一人一人のお力で日本中に環境の大切さを訴えていこうではありませんか。

和歌山県世界遺産センター
辻林浩センター長
(平成 26 年 5 月 10 日)



かも道ウォーキング
(平成 26 年 1 月 26 日)



ごみのない遍路道で全国からのお遍路さんを迎えよう

ユース会員 福谷洋介（北島町）

今年、弘法大師によって四国八十八ヶ所霊場が開創されてから、1200年となる記念の年を迎えます。そのため、各霊場では開創1200年を記念して、遍路文化を継承するために、様々な記念事業が実施されています。四国八十八霊場には、物の豊かさだけを追い掛けて見失ってしまったかと思わせてくれる何かがあるように思います。だから、世代の違いを越えてその何かを求めて、様々な人達が訪れるのではないのでしょうか？

しかし、その一方で遍路道に心無い人達が捨てていった不法投棄が問題になっています。ごみはごみと呼び寄せます。もしかしたら、弘法大師も天から遍路道に広がっているその光景を見ていて嘆いているかもしれません。開創1200年を機に、世界遺産を目指した取り組みが、官民が一丸となって進むと思います。まずは、ごみが落ちていない遍路道にして、全国から訪れるお遍路さんを気持ちよく迎えらる環境からつくっていきませんか？



マナーを守って良いおもてなしを！

ユース会員 林大輔（徳島市）

今年、四国八十八ヶ所霊場開創1200年を迎えます。霊場には、県内外から毎年多くの方が参拝しています。また、近年では外国人の参拝も増えつつあります。4月にはスペイン・レオン県の副知事を務めるホセ・アントニオ・ベラスコ副知事も参拝に巡礼しました。しかし、大きな課題となっているのが遍路道の山林に家庭ごみや産廃を投棄する方が後を絶たない問題です。この問題は、年々解決に向け多くの方が清掃活動に尽力されています。遍路道が世界遺産に登録されれば、国内外から多くの方々も巡礼に訪れます。そうなれば、ごみが1つでも落ちていない環境を整備することが大切です。マナーを守って良いおもてなしをしてあげましょう！



文理大と一緒にの眉山の遍路道美化作業

阿波徳島“五ヶ所まいり”（詣で）

会員 小野信明（徳島市）

阿波徳島五ヶ所とは、徳島市西部に位置する四国八十八ヶ所寺の

第十三番大栗山 大日時 （おおくりざん だいにちじ）

第十四番盛寿山 常楽寺 （せいじゅざん じょうらくじ）

第十五番法養山 国分寺 （ほうようざん こくぶんじ）

第十六番光躍山 観音寺 （こうようざん かんおんじ）

第十七番瑠璃山 井戸寺 （るりざん いどじ）

これら五ヶ寺のことではありますが、国府町、石井町の多くの方は“五ヶ所まいり”と言って月参り（月に一回）少なくとも年に二～三回は参拝しています。私は今から七十年前、小学校三年生から三年間、祖母に連れられて、年に二～三回参拝をしていました。歩行距離は自宅から大日寺まで八キロ、五ヶ寺間の距離も八キロ、井戸寺から自宅まで四キロ、合計で二十キロ、歩行時間は延べ四時間三十分、参拝時間は延べ一時間三十分、昼食、休憩時間は一時間で合計七時間、一日の活動時間としては最適でありました。

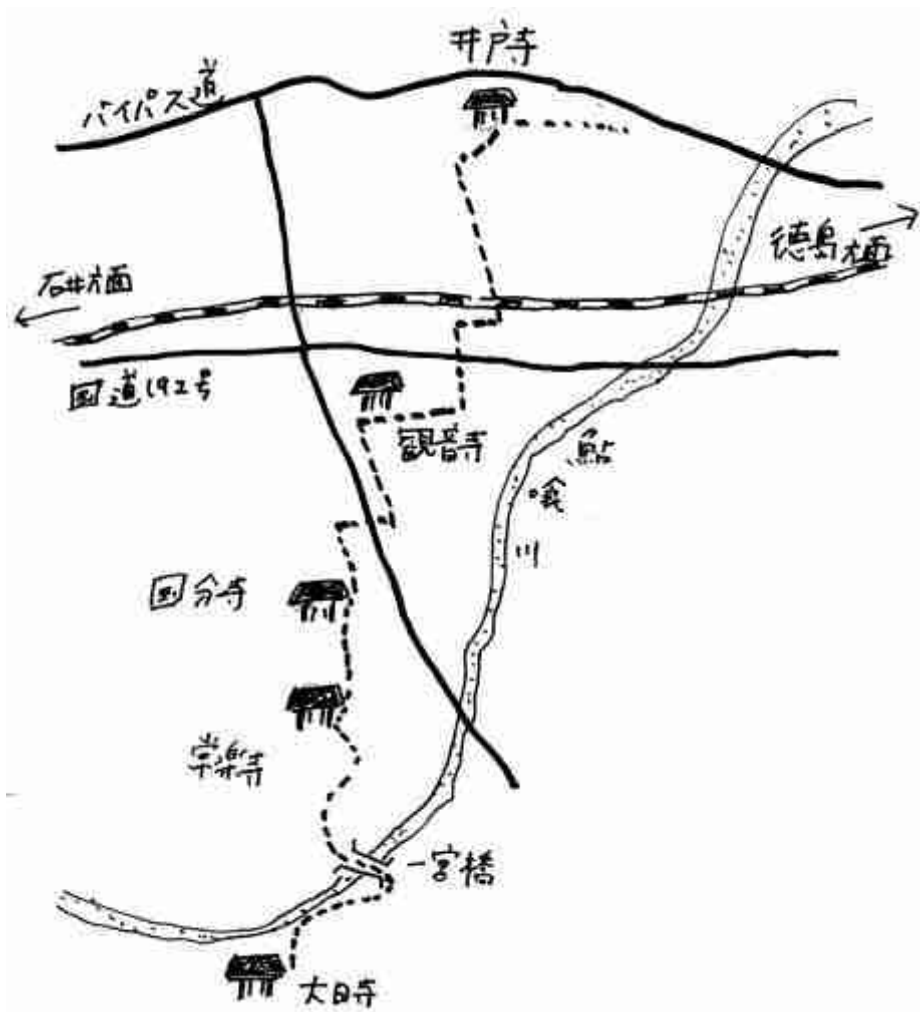
当時の道は全て砂利道で、履物は手作りの藁草履（靴などありません）すり足で歩くのが多い日は草履が“スリヘリ”最後は素足で砂利道を歩き、痛い思いで帰宅したことが度々ありました。でも昼食にうどん店で最高のご馳走“きつねうどん”が食べられるのが楽しみで、祖母について行ったのが懐かしく思われます。



“五ヶ所” “寺でのお遍路さん風景、左は常楽寺右は井戸寺

現在私は、国分寺と観音寺のへんろ道添いに居住しています。毎日多くの“歩きへんろさん”に出逢いますが、逢った人に出来るだけ声を掛ける様に努めています。先日北海道から来たと言う六十五才位の男性とお話をしましたが、今回は六回目で逆回りで巡礼をされている由、全行程千五百キロで所要日数は五十五日～六十日ですが、何を思って何回も巡礼をされますか？と質問をしましたところ「自分の人生で、今まで目的を達成出来たものは何も無いが、苦勞して八十八ヶ寺を参拝出来た達成感は格別であります。この達成感を味わいたいから」とのことでありました。また「へんろ道が数年前よりも、道筋に捨てられた“ゴミ”が今回は少なくなっていたと思う」との言葉に驚きました。新開理事長の先頭に立った“ゴミゼロ作戦”の効果が出たものと思われます。

阿波徳島“5ヶ所”寺



**ここからは、
会員のフリーな寄稿とか、
活動報告、情報等です。**








東北被災地の支援活動に参加しましたので、最新情報をご報告します。

- 1 活動日 : 平成26年3月11日（火）12日（水）
- 2 活動場所 : 11日・・・勾当台公園市民広場 12日・・・南三陸町、石巻市、名取市
- 3 活動内容:「キャンドルナイト2014仙台・しあわせな黄色いハンカチプロジェクト」に参加しました。

【3月11日（火）は仙台市内にて】

<p>受付</p>		<p>主催団体は青年会議所であるが、ボランティアを取りまとめているのは、NPO法人ボランティアインフォという団体。受付から、活動内容の説明、活動内容によるグループ分け、グループごとのリーダー等、ボランティア活動全般を青年会議所と連携しながらリードしている。</p>
<p>活動①</p>		<p>「しあわせな黄色いハンカチプロジェクト」 被災した時に、「わが家は大丈夫、他の家の支援にあたって」という合図のハンカチ。趣旨を説明しながら、イベントの参加者に配布。被災経験のある方は、熱心に話を聞いて下さり、近所の人にも配るともらって帰る人も。</p>
<p>活動②</p>		<p>「キャンドルナイト2014 紙コップへメッセージ」 来場者に呼びかけ、紙コップを配布。ブースで復興に向けてのメッセージを記入してもらおう。それぞれの想いのあふれる紙コップがそろそろ。「何もかもが変わってしまい、自分の家に帰る時にさえ道に迷ってしまう」というお話をうかがった。</p>
<p>活動③</p>		<p>「キャンドルナイト2014 点火準備」 メッセージを書いてももらった紙コップに少量の水を入れ、不燃カップの中にキャンドルを入れたものを入れる。風で火が消えないように、上に穴の空いた球状の蓋をかぶせ、文字や外枠にあわせて並べていく作業を行った。</p>
<p>追悼式</p>		<p>「東日本大震災三周年追悼式」 政府主催の追悼式を放映。午後2時46分の時報に合わせて黙祷。たくさんの方が会場を訪れていたが、仙台在住の被災者の方は、被災者自身も震災に対する意識が風化しつつあることを嘆いていた。</p>
<p>活動④</p>		<p>「キャンドルナイト2014 式典」 全てのキャンドルに点火。「しあわせ」という文字が浮かび上がった。前のビルには「明るい未来へ」の文字。追悼式は、それぞれ被災地で行っているが、仙台での拠点を作りたいと青年会議所が中心に取り組んでいる。</p>

【3月12日（水）被災地にて】

<p>南三陸町</p>		<p>「南三陸町防災対策庁舎」</p> <p>被災したほとんどの建物は取り壊されていたが、まだ一部手付かずの状態になっている建物もある。ガレキは除去されているが、港の防波堤はそのまま。地盤沈下により海水が流れ込むのを土嚢でおさえている状態。</p>
		<p>「南三陸町さんさん商店街」</p> <p>2年前に訪れた時と同じように営業を続けている。この場所以外の店は仮店舗のファミリーマートとキャンピングトレーラーを利用したお店。写真を撮って、たくさんの人に現状を伝えてほしいという話をうかがった。</p>
<p>石巻市</p>		<p>「大川小学校」</p> <p>被災した状態のまま残っている。周囲は堤防工事と整地作業が進んでいる。慰霊碑が新たに作られていた。小学校教員として、非常時の対応について具体的な対策を立てておくことと冷静な判断ができるよう研修が必要だと改めて思った。</p>
		<p>「石ノ森萬画館」</p> <p>旧北上川の中洲にあり、津波による被害を受ける。被災直後は40人が避難。1年半後に再開。周囲は被災した建物がまだ取り壊されず残されている。川の護岸工事が進められていた。対岸には復興商店街が作られている。</p>
<p>名取市</p>		<p>「閑上小学校」</p> <p>津波による浸水被害により使用不可能になったため、小学校は仮移転している。廊下には卒業式に向けての掲示物がそのまま残されていた。体育館の時計は、2時48分頃で止まったまま。2年前に訪れた時は、津波により流された物を体育館いっぱい並べ、持ち主に返す作業を行っていたが、ステージ上に片付けられていた。体育館の壁には、卒業生からのメッセージが寄せ書きの形で貼られていた。</p>

勾当台公園市民広場に設けられた献花台には、切れることなく行列が続いた。追悼式の中継を見ながら話した被災者の方が、震災直後のことをたくさん聞かせてくださった。徳島から来たことを知ると、阪神淡路大震災は大丈夫でしたか、南海トラフ大地震に対してはと心配してくださる被災者の方も。短い時間ではあるが、たくさんの人のお話を聞かせてもらった。そっとしておいたらという考えもあるが、写真や言葉で現状を伝えていくことも必要であると思う。震災から3年。イベントへの参加者が年々減ってきていることを嘆く被災者の方。自分にできることを常に考えていきたいと思う。



私たちの東北支援ボランティア

～石巻ひがし保育園との交流から～

会員 小林徳子（藍住町）

早春の太陽が燦々と照り返すハウスには、にんじんの緑がひと際背伸びしています。7回目の馬年を迎えた成人式の朝、一通の手紙を受け取りました。それは社会福祉法人輝宝福祉会からの一文で、送り主が宮城県石巻市渡波任田山とあったので、にんじんと一緒に、保育園開設の募金を贈った先だとすぐ分かりました。

初春の候、輝宝福祉会は1日も早く「保育園建設」を進めてまいりました。震災復興の影響下、本体工事が平成25年12月27日に竣工しました。更に備品等を整え、3月中旬には完了する予定です。落慶式典をしたく御案内申し上げます。

との手紙に、寒さを吹き飛ばす春の訪れを感じました。胸の高鳴るのを覚えつつ、関係者と、多くの方々に御協力いただきながら、出来そうな、実現したい発想がとめどなく沸いてきました。それらのことを、石巻ひがし保育園新築に伴う励ましチャリティーと名付けまし

1. 新築祝い藍染め3号の制作と寄贈(1号は南三陸町・2号は仙台市)
2. 保育園児の使う備品を贈る募金活動
3. にんじん初出荷の寄贈(落慶式典に有志による1箱運動)



振り返れば被災地支援を中心に10数戸有志の御協力で、平成23年3月から、にんじん支援と送料募金を続けてから四年が経過しました。平成23年は1トン、24年は3トン、25年は2.85トンの規格外品や秀品を全国に送り届けました。アグリレデーズ交流会と、パソコンファミリー教室のボランティア活動が連綿として。続けられております。

それから3カ月後～仮の励ましチャリティーから実現に向かって更に動きました

石巻ひがし保育園さま

この度は石巻ひがし保育園の新築、誠にありがとうございます。徳島県の藍住町では、特産のにんじんの収穫が始まったばかりです。新築のお祝いに、私達の気持ちを次の通りお贈りさせていただきます。

① 徳島にんじん 4箱 ②保育園に必要な備品として 5万円 3月12日振込送金しました。何か必要なものにお使い戴ければと存じます。③徳島の特産物・藍染め製品を新築祝いとしてお贈りしました。

同封の藍染は、私の石巻ひがし保育園に対する想いをデザインしました。見られる方の色々の想いでご覧戴ければ有り難いと存じます。徳島の春にんじんは、3月中旬から5月終わり頃まで出荷され、大規模の農家は6月中旬まで続きます。綺麗な秀品は、M、L、2L、Sに選別され、10キロ箱に詰めて出荷され、この他、規格外品も沢山出てジュースなどにします。料理して食べれば秀品と余り変わりませんが、お贈りした赤秀の品は、秀品と規格外の丁度中間くらいの品物です。この度、アグリレデーズ交流会が中心となり、3年前から、毎年お贈りしています。未だ未だ寒い日が続きますが、お体に気をつけられて、新しい保育園を中心に色々な復興にお励み下さいますよう、ご祈念申し上げます。 かしこ

平成26年3月13日

徳島県アグリレデーズ交流会・徳島県職員退職者会板野支部藍染部会
アグリパソコン教室の有志 代表者 K. T

771-1211 徳島県板野郡藍住町徳命字元村29

下記は、平成26年3月15日の落慶式に参加者200数十名、出席された方の感動込めたお礼状の絵手紙と徳島から送った藍染め作品です。



宮城県石巻市渡波字犬谷 31 の 2
祝田仮設団地 A.M 様より (26/4/8)



新築祝いの藍染作品です
新築に ○と○を二つ繋ぎました。石巻と徳島の輪を並べました。点、点はヒトや、家を表しています。両者の絆を一本の○○でつないでいます。急いで思いつきを作品にしました。お粗末ですが、ご笑納下さい。

石巻ひがし幼稚園・輝宝福祉会からのお礼の感謝状と 記念品が贈られてきました。

支援者各位
社会福祉法人 輝宝福祉会
謹啓 桜の花も散り始めるこの頃、皆様には益々ご健勝の事と存じます。 当会から心ばかりのお礼を『感謝状』という形でお渡ししたく、『記念品』と併せお送りさせて頂きましたので、ご覧戴ければ幸いです。ご縁を戴きました皆様には、今後ともご理解と末永いお付き合いをお願い申し上げます。謹白



支援者宛の感謝状と記念の時計

にんじんの支援から始まった被災地との交流を始め4年目になります。平成24年には、高台に新築されたSさんに第1号を贈りました。今回の石巻ひがし保育園は第3号です。にんじんの出荷や、募金にご協力戴いた方々に厚くお礼を申し上げます。

アグリレディース交流会・パソコン教室 小林

一步会ユースは“里山再生活動”に取り組んでいます！！

一步会ユースは、佐那河内の古民家の周辺の里山の保全・再生作業に参加して活動中です。その中で耕作放棄地を整備しての農作業体験も行います。里山や古民家等の保全再生とかビオトープに関心のある方、是非見に来てください。これらは、NPO法人市民未来共社の企画事業の一環で、実践体験から学ぼうというものです。
問合せ：ユース代表 黒田まで（携帯 090-9555-2192）



場所は、佐那河内村上字遠野102（役場から車で10分）

ユース活動

～東北被災地支援活動～ ゴーヤの苗売上代金を活動資金に寄付した

一步会ユースは、ゴーヤの苗を“びっくり日曜市”で販売、その収入の一部を東北支援団体（ダッシュ隊）の活動資金として寄付しました。（黒田記）



出店日：4月27日（日） 5月11日（日） 5月18日（日）

～ 只今、自然環境のこと勉強中です！～

“勝浦川流域フィールド講座”がスタートです

会員2名(米川さん、林君)が参加受講中です

生物多様性とくしま会議(県内の環境保全23団体の連携組織)と徳島保全生物研究会が、若手の人材養成の主旨で始めた「とくしまの自然の魅力とその課題を学ぶ」をテーマにした実践講座です。途中からでも参加可能で、11月まで後6回の講座があります。



第1回の開講講座(鎌田講師)

平成26年5月25日

第2回講座

上勝の高丸山での野鳥観察

平成26年6月8日



【今後の講座予定】

	時 期	テ ー マ	会 場
第3回	6月29日(日)	里山の魅力を体感しよう	上勝山犬嶽
第4回	7月20日(日)	里山の困った生きもの	上勝高丸山
第5回	8月2日(土)	里の暮らしと人工林	勝浦町
第6回	9月7日(日)	川で遊んで、川から学ぼう	勝浦川上流
第7回	9月28日(日)	河口の生きもの	勝浦川河口域
第8回	11月16日(日)	ふりかえり・まとめ 閉講式	とくしま県民活動プラザ

* 講師は、県内トップの活動家、専門家等が担当します。

海亀よ、今年もやって来い！

～室戸阿南海岸国定公園制定50周年記念の地域住民自主活動～

蒲生田海岸クリーンアップ作戦（6月1日 一歩会参加者7名）

阿南市のうみがめ保護団体や阿南市ボランティア連絡協議会等のお誘いに応じたものです。



阿南市大潟町あこめ海岸クリーンアップ作戦（6月8日 一歩会参加者8名）

大潟町協議会と一歩の共催で実施したもので、“公園監視事業”の一環でもあります。



【編集後記】



●今回は「遍路」というテーマを取り上げました。昨年の遍路道作業はあずり越えの草刈とか眉山の清掃作業に留まりました。今年は、四国霊場開創1200年でもあり、遍路道のクリーンアップ意識が四国一帯に広がればと願っています。今回のテーマは馴染みが無い人が多いのか、反応は今一つでした。しかし、奈良の歩き遍路、山下さんに投稿のお願いをしたところ、山下さんが何人かに声をかけて頂き、県の広域行政課で着任早々の小山実千代さんにも寄稿頂き、どうにか完成に至りました。今回も内田さんが素晴らしい表紙をデザインして頂きました。皆さま方の寄稿のご協力、本当に有難うございました。

●さて、昨年は第2次安倍内閣が成立し、4月の消費税8%のアップにより内閣支持率はどうなるか心配されましたが今の処、景気に影響が少なく、支持率も52%とかろうじて維持されています。その安倍内閣も憲法解釈の変更による自衛隊の行動範囲の拡大、海外の武力行動を正当化する等の懸念も深まっており、これからも政治には目が離せません。

●一步会は今年も昭和CGの管理、「暮らしの緑化推進」の絵画コンクール、室戸阿南海岸国定公園、東山溪県立自然公園の環境巡視事業等の行政受託事業に加えて、遍路道を一般市民が知り親しむウォーキングイベント、お接待団体の支援等遍路を活かしたまちづくり活動に取り組んでまいります。

●我々のここ十数年の地道な活動が認められて、4月には東京の憲政会館にて天皇皇后両陛下ご臨席の下、安倍総理より内閣総理大臣表彰を戴き、レセプション会場では安倍総理の外、林農林水産、石原環境、太田国土交通の各大臣、最高裁判所長官、衆参議員議長、小泉政務次官等と親しく懇親の後、天皇皇后両陛下の前にもエスコートされました。皇后陛下は松山でお遍路さんを見たことが印象深く残っていると話される等誰にも滅多にはできない機会を持つことができました。

更に、6月には徳島新聞社より、第50回徳島新聞社賞、奨励賞が受賞でき、一步会の表彰の話題は大きく世間にひろがり、何時までも記憶に残る年になりそうです。(富田記)



暑中お見舞い
申し上げます

特報！

徳島新聞創刊七十周年記念
徳島新聞賞奨励賞を受賞しました



今般、徳島新聞創刊70周年記念事業として、ふるさと徳島に貢献した団体や個人を顕彰する第50回徳島新聞賞に当会が選ばれて表彰されました。表彰されたのは2団体と2個人で、当会は2団体のひとつである奨励賞ということで、長年の取り組み活動が高く評価されたものです。6月1日の表彰式には、各界代表の審査員や徳島新聞社幹部の前で、植田社長から表彰状と活動資金を頂きました。これは当会の副理事長、役員をはじめ会員のみなさまのご支援、ご協力の賜物で会員みんなで受け止め、喜びたいと報告致します。(新聞)

受賞者は次の通りです。

【大賞】NPO法人グリーンバレー

【奨励賞】NPO法人 徳島共生塾一步会

【特別省】アニメ制作会社ユーフォーテーブル近藤光社長

【第50回記念賞】上勝町第三セクターいろどり横井知二社長

尚、審査に立ち会われたのは

松重和美四国大学学長（徳島県教育委員会委員長）、徳島文理大学玉有繁教授、
徳島経済研究所田村耕一専務、立木写真館立木さとみ常務（徳島県人事委員会委員長）
徳島新聞社植田和俊社長

です。